

事務局長	記録者
	

平成 28 年度第 2 回大潟コミュニティ・スクール委員会 議事録

開催日時 場所	進行・記録	出席者・欠席者
平成28年10月27日(木) 18:00~20:30 大潟町中学校 会議室	進行 小玉 裕 記録 長谷川和彦	出席委員 ・長澤 英夫(会長) ・高橋 道代(副会長) ・平原 誉夫(事務局長) ・小林 恵子 ・土屋 美枝 ・黒崎 忠夫 ・小山 彰 ・井部 孝一 ・柳澤 恵子 ・熊木 勉 ・塚田 克俊 ・渡辺 章雄 ・佐野 謙一 ・長谷川敬子 ・陸川 晃 欠席委員 ・チャールズ ストラットン 事務局 ・小玉 裕 ・長谷川和彦 大潟町小学校職員(オブザーバー) ・浅野 一清 ・渡邊 卓司 ・合志 淳 ・笠原 賢一 大潟町中学校職員(オブザーバー) ・内藤 隆 ・武田 雅人 ・小山 宏一 古川 和恵

議事内容

1 開会

2 会長あいさつ

3 小・中校長あいさつ

4 議事 (議長は長澤会長)

(1) 小学校からの説明

- ① 1 学期学校評価の概要 (成果と課題)
- ② 夢・志チャレンジ事業の取組状況
- ③ 全国学力・学習状況調査及び体力テスト結果、対策について
- ④ しあわせスタートプランについて (承認)
- ⑤ その他 (生徒指導上の課題等)

(2) 小学校についての質疑

<③しあわせスタートプラン> → 承認

○ 4 月から固定した学級にするというが、学級のつくり方はどうするのか？

→ 2 つの保育園と連絡を取り合い、いろいろな条件を加味しながら学級編成を行う。

○ お母さん先生をさせてもらった経験から、保護者や児童は、最初から担任を決めた方がなじみやすい。

○保護者の中には不安をもっている人もいます。スタートプランについて保護者には丁寧な説明をしてほしい。

○これまでのよい取組は続ける。もしも取組がうまくいかない場合は、2年生に上がる時にクラス替えを行うこともある。学年全体、職員全体で指導し、子どもの実態に応じてお母さん先生を配置する。

<生徒指導上の課題等>

○一人の先生が担任ではなく、全員の先生が450人の担任という意識でやっていきたい。

○地域には、学校のせいになっている人はいない。家庭と地域の協力も必要である。

(3) 中学校からの説明

①1学期学校評価の概要（成果と課題）

②夢・志チャレンジ事業の取組状況

③全国学力・学習状況調査及び体力テスト結果、対策について

④その他（生徒指導上の課題等）

(4) 中学校についての質疑

○家庭学習とメディアの接し方が問題である。学校は取り組んでいるが、それだけでよいのか。保護者を巻き込み、PTAとしてアクションを起こす必要があると思う。大潟の子どもを育てる会では2回目のメディア講演会を行ったが、保護者の参加が少なかった。

○保護者をどうするのか、家庭を誰が指導するのか、大変な問題である。メディアの視聴時間についてどうでもよいと考えている保護者がいる。しかし、頭から叱りつけることはできない。

○メディア宣言を市P連が出したのは画期的なことだと思う。

○学校がデータを出したので、大潟区でも保護者が話し合う機会を作り、保護者に考えさせてはどうか。PTAでは、各学級で話し合い、大潟ルールを提案できるとよい。

○先生と保護者も話し合う場が必要である。

→6年生の担任をしていた時に、市教委の田邊指導主事を呼んで、子ども向けと親向けのメディア講演会を設定した。保護者同士で話し合う場も設定した。このような取組を続けていくことが大切だと思う。

○親が変わらないと子どもは変わらない。虐待も同じである。家庭の中での親子のコミュニケーションが少ない。親子のコミュニケーションが一番大事である。

○根気よく取組を続けていくことが大事である。

5 協議

(1) 「総合的な学習の時間」のカリキュラムについて

①小学校からの説明

②中学校からの説明

③カリキュラムの内容についての意見交換

○「大潟町中学校区総合的な学習の時間カリキュラム表」の中学校の「活動のねらい」に示されている1年生（態度的側面）と3年生（関心的側面）は、逆なのではないか？

→ご指摘のとおりである。すぐに訂正する。

○4年生の校歌に着目した総合の時間は面白いので、ぜひ続けてほしい。米山にも登ってほしい。5年生は、問題を情報収集するところがよい。5年生の考えを町に伝えてほしい。

○5年生は塩づくりをしたらどうか。昔は犀浜で塩づくりをしていた。飯山へと塩の道もつな

がっている。

- 中学校の「夢の扉」に2回出席をし、有意義だった。子どもたちには将来の夢について考えるきっかけになる。できれば土日に開催し、親子で話を聞くことができるとよい。
- 子どもは育った環境がスタンダードになる。よい環境とはどういう環境なのか、客観的に見ることが大事である。
- 昭和56年に教育委員会にいたことがある。当時も熱心な方は講演会に参加し、来てほしい方が来ないという状況であった。今も当時と変わらない。海のことと言えば、塩づくりが抜けている。今は、谷浜小学校で行っているようだ。大潟区でも鶴の浜で塩づくり体験をしたことがある。埋没した塩田は多いが、雁子浜には塩田跡がまだある。
- 昔の大潟町小では、2年生が米づくりをしていた。稲は手刈りをし、はさ木にかけ、わらは牛舎へ運んだ。どんど焼きや餅つきもやった。祖父母が喜んで子どもに教えていた。
- 「来ない親をどう出席させるか」ということについては、親子給食などの動機付けが大事で、口コミで伝えたり、平日の負担を減らしたり、日程を早く伝えたりするとよいのではないか。
- 3年生で「米大舟」を教えているが、「八社五社」もある。「八社五社」は、奈良時代から1000年も続く歴史があり、上越地区の広範囲に伝わっている。
- 子どもからの手紙はいまだに大事にしている。二分の一成入式や卒業式など、子どもから親へ手紙を渡す機会を作ると、親は学校へ足を運ぶのではないか。
- 6年生が夏休みに親の職場を訪問し、「仕事の大変さが分かった」と言っていた。中学校の入学体験で、部活動での先輩の姿を見た6年生は感動したようである。今後も、6年生が1年生に教える、中学生が6年生に教えるといった活動ができるとよい。

6 その他

・学校からの提案

- CS委員からもっと学校に来てもらい、いろいろな教職員の声を聞いてほしい。

中学校：11月25日（金）さわやか潟中スクール集会

小学校：12月8日（木）フリー参観授業

・その他

- 100キロマラソンでは、大潟町中の生徒が43人（前回は10人）手伝ってくれた。そのうちの2人が看板を作ってくれた。たいへんうれしかった。

7 事務連絡

- (1) 今後の予定 第3回：2月初旬～下旬
- (2) コミュニティ・スクール委員会関連情報や議事録のHPや学校だよりでの公開
- (3) その他

8 閉会